

事務事業名	小学校施設整備事業		所属部	教育委員会	所属課	教育総務課
政策名	総合計画体系	(IV)ふるさを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	所属G	教育総務・給食G	課長名	小山 伸
施策名		(23)学校教育の充実	担当者名	梶井 貴明	電話番号(内線)	0854-40-1071 3649
基本事業名		(069)教育施設・設備の充実	予算科目	会計 款 項 目 中事業	0:1 5:0 1:0 0:5 0:1	小学校施設整備事業

1 現状把握の部

(1)事業概要

①事業期間	②事業の内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	③開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか?)
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(16年度~) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度~年度)	学校施設の修繕事業(校舎、屋体等施設、敷地・法面、遊具の維持管理) 毎年度、当初予算要求時に学校から要求された修繕箇所及び保守点検等による指摘修繕事項、また、前年度までの未修繕箇所について優先順位を決め、これを実施する。緊急を要する修繕が生じた場合には、これにも対応する。	安心安全な教育環境で生活できるよう、施設の修繕を行う。

(2)トータルコスト

①事業費の内訳(概要)	事業費	単位	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(計画)	25年度(計画)	全体計画
修繕費6,550千円 手数料73千円 設計・工事監理委託料284千円、工事請負費27,326千円	国庫支出金	千円	53,200	15,000	24,903			
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		2,000	9,330	10,890	10,000	
	事業費計(A)	千円	53,200	17,000	34,233	10,890	10,000	
②延べ業務時間の内訳(業務の流れ等)	正規職員従事人数	人	2	2	2	1	1	
修繕要望整理、現場確認、設計、発注、日程等調整、検査、支払い	延べ業務時間	時間	380	1,477	2,000	1,300	1,300	
	人件費計(B)	千円	1,449	5,743	7,884	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	54,649	22,743	42,117	10,890	10,000	

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	①主な活動	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	23年度実績(23年度に行った主な活動)	⑤活動指標							
	老朽化に伴う施設修繕(電気設備・漏水・消防施設等)	ア 小学校修繕工事箇所数	箇所	51	124	92	50	50	50
	24年度計画(24年度に計画している主な活動)	イ							
	老朽化に伴う施設修繕(電気設備・漏水・消防施設等)	ウ							
		エ							
		オ							

目的	②対象(誰、何を対象にしているのか)	指標名	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(目標)	25年度(目標)	最終(目標)
	市内の小学校	⑥対象指標							
	ア 市内小学校数	校	21	21	20	19	19	19	19
	イ								
	ウ								
	エ								
	オ								
上位目的	③意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦成果指標							
	施設使用上の利便性を確保する。	ア 修繕実施箇所数と要望箇所数の比率	%	43	55	60	60	60	60
	イ								
	ウ								
	エ								
	オ								
④結果(どんな上位目的に結び付けるのか)	⑧上位成果指標								
	生きる力を身につける。 →生きる力とは?・基礎基本(知・徳・体の面)を身につけて、課題を見つけ、判断する能力	ア 「将来かなえてみたい夢がある」と答えた児童生徒の割合	%	58.6	58.6	58	61	62	64
	イ 不登校児童生徒の割合	%	0.52	0.55	0.55	0.53	0.52	0.5	

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

①事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	②この事務事業に関するこれまでの改革改善の取り組み経緯	③この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
合併により小学校が21校となり(現在は19校)、修繕件数、所要額が多くなり、修繕要望に全て応えることができない。	修繕要望に優先順位をつけ、緊急性の高いものから対応する。	学校から当初予算要求時に修繕要望が提出される。

事務事業名	小学校施設整備事業	所属部	教育委員会	所属課	教育総務課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↘ 安心安全な教育環境で生活できるよう、施設の修繕を行う。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↘ 修繕により学校施設を維持することは妥当。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↘ 修繕により学校施設を維持することは妥当。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↘ 施設の老朽化に伴い、修繕要望額は増えていて、予算内で対応できない状況である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↘ 安心安全な教育環境で生活できるよう、子どもの安全面を最重点に考えるべきであり、廃止休止はできない。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↘ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↘ 施設の維持管理については他部局でも行っているが、学校施設を委員会部局が管理している限り、統廃合ができない。
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↘ 壁クロスの張り替えや壁の塗り替えなど軽微な修繕については校務技師会で対応しているが、学校要望に対し半分も応えられない状況で削減することはできない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方の工夫で延べ業務時間を削減可能か? 成果を下げずに正職員以外や委託できないか?	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↘ 修繕の設計については業者に年間を通して委託契約をしている。また、軽微な修繕については夏休みを中心に校務技師会で対応している状況で削減することはできない。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↘ ⇒3 今後の方向性・改革改善に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↘ 子どもたちが安心安全な教育環境で生活できるよう、施設の修繕を行っていることから公平・公正である。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	合併と統合により、小学校が21校となり(現在は19校)、修繕件数、所要額が多くなり、修繕要望に全て応えることができない。子どもの安全面を前提に優先順位を決め、修繕するが、雨漏りや消防施設の老朽化による修繕など緊急性を要するものも中途に発生するため、要求ベースに応えることができない。																						
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果																						
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> (廃止・休止の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×		低下		×	×
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業費に多額の経費を要するもので起債対象でもないもの(例えば、雨漏り、屋根の錆止め・塗替え)については、現状すべてできない状況にあり、従来の枠以上の予算確保が必要である。																							